

Fun with

英語教育 小中連携

2019
冬号

巻頭特集

小学校からの外国語(英語)教育が果たすべき役割

狩野 晶子(上智大学短期大学部英語科・准教授)

多様性があたりまえの社会とは

先日ニューヨークで、教員のための教材教具の専門店を訪れました。おもに小学校の先生方を対象とした品ぞろえで、かなり広い店内は教材や教具でいっぱい。各教科のドリルや参考書、指南書などが充実しているのはもちろん、教案を書くためのバインダーノート、イラストの入った名札や壁に掲示する標語ポスター、Good Job!とかGreat!と書かれたシールなど、これがあるといいな、と思うような教具がたくさんありました。写真1は、様々な字体と大きさのアルファベットの切り抜きシート各種が並んだ棚です。

あれこれ見て回る中、赤ちゃんのお人形たちに出会いました(写真2)。様々な人種の幅広いセレクションで、肌の色だけではなく髪の質感、骨格などもそれぞれの特徴を捉えています。そして家族の人形も(写真3)、同じように様々な人種のものがあり、写真はCaucasianとAfrican AmericanとHispanicですが、ほかにもAsianやNative Americanが販売されていました。そして街のドラッグストアでは幅広い肌の色に対応した化粧品が、写真4のように並んでいます。ここでは多様性を「認める」のではなく、多様性があたりまえであり、それをどう受け止めていくかに教育の力点が置かれているのだと実感しました。



↑写真1 (アルファベットの切り抜きシート)



↑写真2 (様々な人種の赤ちゃんの人形)



↑写真3 (様々な人種の家族の人形)



↑写真4 (幅広い肌の色に対応した化粧品)

外国語(英語)教育が広げる多様性

日本では、いよいよ2020年度より新しい学習指導要領が施行されます。小学校では3年生から『外国語(英語)活動*』が領域として必修化され、5年生と6年生の高学年では教科としての『外国語(英語) *』となります。[*英語を扱っている学校が大多数である現状を踏まえ以後の文中では『英語活動』『英語』と表記します。]新しい検定教科書ではこれまで以上に子どもたちの目は世界へと広がり、多様な人種、国籍の人々と英語というツールを使って交流します。



(Blue Sky elementary 6 (啓林館2020) Unit 1より)

いま的小学生は、ラグビーワールドカップの日本開催、東京オリンピック開催、そして大阪万博の開催など、世界を身近に感じて世界中の人々と交流する機会がたくさんあります。さらにインターネットや通信機器の発展により、世界中とリアルタイムでつながることのハードルはぐっと下がりました。

小学校でなぜ外国語を学ぶ必要があるのか。答えの一つは、児童期に外国語と外国文化へ興味を持ち、多様性への感受性を高めることができることにある多様性を認めて受け入れることにつながるからです。小学校での英語教育はコミュニケーション活動を通して、お互いの違いを受け入れながら相互理解を深めることを大きな目的としています。英語をきっかけに、きっと子どもたちは大人が思う以上にやわらかい心と頭で世界の多様性を受け入れていくことでしょう。そしてそれが、自分たちの身近にある多様性への感受性、寛容性を広げ、よりインクルーシブな社会を作ることに繋がってゆくはずです。

児童期の言葉の学びの強み

2020年度からすべての小学校で3年生から英語活動が開始されます。中学校で初めて英語に触れた子どもたちと、小学3年生から始める子どもたちとでは、学びの量も質も大きく変わってくることは明らかです。さらに、小学校での3年生から6年生までの4年間の児童の身体的、認知的な発達の幅はとても大きなものです。これらを踏まえこれから的小学校英語は、ますます児童期ならではの特性と資質を活かした学びとなる必要があります。「でも、どのように?」「では、どうしたらいいの?」という疑問に答えるヒントとして、第二言語習得での研究と筆者が長年の児童英語実践から得た経験から、児童期の言葉の学びのメリットを挙げます。児童期ならではの「言葉を学ぶための資質」とでもいいくべき特徴は、年齢が上がるとともに徐々に失われていきます。それらが言葉を学ぶ上でどのようにメリット、強みとなるのかをみていきましょう。

一つ目の資質は、音声に対するセンスの良さ、音を敏感にキャッチする力です。子どもたちは聞いた音を、その細かな音の抑揚やリズムまでびっくりするくらい上手に再現します。タレントの物真似やアニメのキャラクターの声色などとても上手です。しかも、そのまま真似て表現することへの照れや恥ずかしさがありません。これを活かして授業では「英語らしい」音を、しっかりと英語らしいまま捉えたり発音したり、英語特有の音やリズム、イントネーションを正確に捉えて再現する活動を取り入れましょう。発音のみならずプロソディを含めた流暢性(fluency)の獲得につながる大切な資質を活かしましょう。

二つ目の資質は、音のかたまりを丸ごと受け取って丸ごとのまま処理する力です。母語においても文字の読み書きがまだ完成しない児童期は、文字に頼らない分、耳から音声で入る情報に対する許容量と処理能力は大きいのです。これは文字でメモを取ったり、書いたものを読むことで記憶を助けることが出来る我々大人からは失われてしまった力とも言えます。音に対して子どもたちはびっくりするような記憶力と集中力を発揮します。絵本を丸ごと一冊耳で覚えたり、お笑い

やアニメのセリフなど、相當に長い音の固まりをそのまま丸ごとすっかり覚えてしまいます。今の大學生が小さい頃に「寿限無寿限無」を唱えるのが流行りました。筆者は授業で学生たちに言わせてみることがあります。忘れていた…はずが、初めの数フレーズを経て言葉があとからあとから出てきて、気が付けば最後まで言えている。あらためて児童期の記憶の不思議を実感します。児童期のこの力は、たくさんの音の固まりを体に染み込ませて貯めておくことにつながります。たくさんの「意味とつながった音の固まり」の貯金があることで、パッと反射的に出る意味の固まりとして活用できる英語の表現が増えるのです。

三つ目は繰り返しに耐える力、飽きずに単純反復をする資質です。児童期の子どもたちは興味のある対象、楽しいと思うことであれば繰り返しを厭いません。同じ絵本、同じアクティビティー、同じことを何回も繰り返しても飽きません。たいてい大人や指導者のほうが先に飽きてうんざりしますが、子どもたちはもう一回、もう一回とせがみます。集中力のスパンが短い反面、繰り返しへの耐性は高いのが児童期の大きな特徴です。そしてこの資質は、単純な反復練習の要素も必須である言語習得においてはとても大切です。忘れてはならないことは、児童自身がそれを「おもしろい」「楽しい」、または自分にとって「意味がある」と感じられるようにすることです。

四つ目が曖昧さに耐える力(tolerance of ambiguity)です。実は子どもたちは、母語であってもわからない言葉だらけの世界に生きています。小学生にとって抽象的、概念的な語彙や、政治や経済の話など背景知識がない話題は日本語でも難しいものです。子どもたちは日々、推測し類推して、聞き流して、なんとなくわかる体験を無意識のうちにっています。ですから、外国語が一部しかわからなくても大丈夫。これは外国語を学ぶうえで大きなアドバンテージです。わからない外国語をたくさん受けとめるという大人にとっては大いに負荷のかかる状況であっても、子どもは柔軟にその体験を受け入れ、もやもやとわからないなりに、たくさん聞いているうちに少しずつわかってくる。このような学びができる耐性が備わっていること、これはまさに児童期ならではの強みです。



児童期ならではのこれらの資質は、言葉を学ぶうえで大きな助けとなります。そして、いずれも成長とともに徐々に失われていく力です。我々大人は、自分が子どもだった時にどのように世界を見ていたか、どのようなプロセスで物事を認識し理解していたかを忘れてしまいがちです。しかし児童期には大人とは違う、子どもならではの学びの特性があります。だからこそ小学校英語は、中学校以降での英語の学び方とは異なるものであるべきです。小学校英語の指導者は児童期特有の学びの特性を知り、発達段階に応じた学びに寄り添うことが求められます。

これから的小学校での新しい「英語」は、これまで以上に豊かな体験の中で、児童の身体と心に染み込む学びとなるはずです。子どもたちの心身の健やかな成長のための、そしてまだ見ぬ未来へと漕ぎ出すための力強い装備としての外国語教育へと大きく舵を切るときがここまで来ています。

PROFILE

狩野晶子 (かの あきこ) (上智大学短期大学部 英語科 准教授)

専門は第二言語習得、早期英語教育。近年はとくに小学校英語の研究を進め小学校での英語指導、実践研修に携わる。英語教育に関する著書に加え文部科学省検定教科書や辞書、教材など多数執筆。NPO小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・指導者育成トレーナー、英語授業研究学会理事、児童英語教育学会(JASTEC)関東支部運営委員。近著:「新学習指導要領の展開 外国語活動編・外国語編」(共著・吉田研作編)明治図書2018年、「プログレッシブ小学英和辞典」「プログレッシブ小学和英辞典」(共著・吉田研作編集主幹)小学館2019年。

小・中一貫英語教育

～小・中英語のスムーズな接続のための取組～

興 舞子（横浜市立義務教育学校 西金沢学園・教諭）

1 はじめに

本校は、これまでの小中一貫校から2017年4月に義務教育学校西金沢学園として開校しました。県内2校目ですが、公立校の施設一体型としては初のケースとなります。元来、英語教育には力を入れてきており、英語に対する興味関心が高い児童生徒が多いと実感しています。また、地域団体「ミモザの会」を中心となってオーストラリアのメイフィールド校との交流を20年以上も続けています。施設一体型義務教育学校となって3年目、単なるカリキュラムの接続のみでなく、環境を生かして新たな小中一貫英語教育を模索し研究しています。

2 小学校英語から見えるもの

本校では、小学部1～4年生の授業は担任とAETが行い、5・6年生は英語専科の教員とAETが主に行っています。英語の授業をコミュニケーション能力の



育成の場として捉え、ゲームやダンス・歌・会話活動を中心に、知的好奇心をくすぐるような活動を取り入れ、6年間を系統立てて整理しカリキュラム編成を行ってきました。

6・7年生においては、小中連携の一環として、小学部教員と中学部英語科教員の互いの乗り入れ授業を週一回行っています。小学部で「何を」「どのように」学んできたかを知ることは中学校教員にとって大きなメリットがあります。

小学部での授業は基本的に英語で進められます。児童は先生たちが何を話しているのか聞き取ろうと必死です。新出の表現でも、絵やジェスチャーをヒントに、推測しながら内容を理解しようと努めています。また、授業はコミュニケーションベースで進められるため、児童が英語の型にこだわることなく、友だち同士で英語の会話を楽しむ場面が多く見られます。6年生のある単元では、修学旅行で行く予定の日光で買いたいものや訪れたい場所をクラスメイトにインタビューするために、まず、日光のお土産や観光地を英語でどう表現するのかを学び、その後、"What do you want to buy in Nikko?" "Where do you want to visit in Nikko?"といった表現を学習し、それを使用してコミュニケーションを図る姿が見られました。たくさん聞いてから話す活動につなげることでいろいろな表現に慣れ親しんできていることが分かります。

また、本校では、6年生の3月に中学校教員によるブリッジレッスンも行っています。具体的には、中学校1年の4～5月に扱う内容に触れ、聞くことを通して内容理解を図り、教科書の音読や書き写しに取り組みます。児童は、これまで慣れ親しんできた英語表現が中学英語にもつながっているのだと実感でき、モチベーションの向上にもつながっています。

3 | 中学校英語に生かすもの

本校の中学校部英語科では2018年度より、年間で教科書を5回繰り返す「5ラウンドシステム」を導入しています。5ラウンドシステムでは、教科書の英文に繰り返し触れさせることで、聞く力、読む力、書く力を積み上げていき、最終的には自分の言葉で教科書の内容を相手に伝えるリテリング活動を行います。何度も同じ英文に触れることでスパイラルな学習ができます。授業は主に、2つのパートに分けられ、前半の20～25分では帯活動としてペアでのsmall talkを中心に行います。後半の25～30分では、先述のような教科書の活動を行います。small talkでのアウトプットと教科書のインプットを繰り返し行うことで、主体的なコミュニケーション能力と自己表現力を育むことを目指しています。

小中の相互の乗り入れ授業の相乗効果は、このsmall talkの中で特に発揮されていると思います。中学部でのより実践的なコミュニケーション活動の中で、小学部で慣れ親しんできた表現に何度も触れることができ、生徒は言語の役割や使用場面を意識しながら、表現力を高めていくことができます。また、小学部の英語専科教員とティ

ームティーチングを行う中で、会話のデモンストレーションを見せ、モデルを示すこともできます。この際、小・中教員同士で綿密に打ち合わせをし、着目させたい言語材料を意識的に使っていきます。生徒がこれまで「何を」「どのくらい」「どのように」学んできたかを知る教員とモデルを示すことで、生徒は難しいという先入観をもたずに、興味をもって会話に耳を傾け、自分

の会話に生かそうとする姿勢が生まれます。モデルを示したら、生徒同士で会話をさせ、その後、よい例を取り上げたり、「言いたいけど言えなかしたこと」を全体で共有したりしてフィードバックを行い、再度同じ内容の会話に挑戦させます。そうすることで、主体的なコミュニケーション能力の育成を図っています。コミュニケーションベースの小学部の授業と共通する指導法の効果は大きいと考えます。

4 | おわりに

2020年度から小学部5・6年生でも英語が教科化されることに伴い、本校でもカリキュラムの再編成を行っています。施設一体型義務教育学校の特性を生かし、独自の9年間のカリキュラムを作成しなければなりません。小学部で、英語でのコミュニケーションに親しんできた児童を、中学部での英語学習にスムーズ

に接続されるためには、モチベーションの継続が欠かせません。中学部でも、コミュニケーションの中で、計画的に系統立てて様々な表現に触れさせていく必要があります。そして、生徒とのやり取りを通して、主体的に気付き、学んでいこうとする姿勢を育んでいくことが大切だと思います。



PROFILE

興 舞子 (おき まいこ) (西金沢義務教育学校中学部 教諭)

鹿児島県出身。大学では英語音声学を専攻。大学卒業後は鹿児島県で英語教員として5年間勤務。その後、横浜市の公立校にて臨時の任用教員として教鞭をとる。2019年4月より現職。文科省「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」西金沢学園推進委員。

中学校、最初の授業で何をする？

伊藤 智子(足立区立江北桜中学校・主任教諭)

1

「ことばで人と関わる楽しさ」を英語の授業で

子どもたちはそれぞれの小学校で、英語に親しみ学んでから中学校に入学してきます。入学してすぐに「英語が好き」と言う生徒もいれば、「ちょっと苦手」「英語できない」など様々な思いをもっている生徒もあります。でも、調査をしてみると9割以上の生徒が「中学校で英語をがんばりたい」と答えます。そんな生徒たちに、中学校進学はもう一度「英語」に出会わせるチャンス。子どもたちがより主体的に学ぶ意欲を持てるよう、日々の授業を作っていくかなければと思います。私は「なぜ英語を学ぶか」を、授業を通して生徒自身が考え、自分なりの答えを見つけられることを願って授業を計画しています。教師自身が経験や考えを語ることと併せて、活動を通して英語を使う楽しさや、英語を学んだ先に何があるかを常に示すことで、「ことばで人と関わる楽しさ」を生徒が感じてくれたらと思っています。ここでは導入期に行う、カードを使った活動を2つ紹介します。



2

中学校最初の授業 英単語カルタ

最初の授業では、カルタをします。4月の入学式以来新しい人間関係の中で緊張している生徒たちですが、カルタのようなゲームはシンプルながら心を和ませる効果があるだけでなく、ゲームという状況の中で、まとまりのある多くの英語に、無理なく触れさせることができます。例えば、Open the envelope. と言しながらカードが入った封筒を配り、Spread out the cards. とジェスチャーしながら準備させる等です。生徒たちがどのくらいの英語を理解するかを診断するにもゲームは有効ですし、単に英語を聞くだけでなく聞きとる英語のルールの内容から、教師があたたかい学習集団を作ろうとしていることも、生徒に間接的に伝えられます。読まれる単語はbus, train, trumpet, ribbonなどの日常語にし、取り札にはイラストが描かれているものを用意します。メトロノームに乗せてノンストップで2度ずつ読み上げていきます。

T:Do you like games? Today, we enjoy games. Yeah!

(ここで生徒からYeah!というリアクションがなければもう一度やりなおします。以下ジェスチャーをつけて)

T:Do you know Karuta? You listen to English words. If you know it, take the card. When you touch your friend's hand, let's say, "It's yours." or "Here you are." or "Thank you." We don't stop. You don't have time to do Janken. Now, make the group of four. You, one, two, three, four. Move your desks as a group.

3回戦ほど行い、そのたびにカードを数えさせ、トータルでグループ内のwinnerを決めます。

T: How many cards did you get?

Please count in English.

Who is the winner? Who is the champion?

Ask your friends, "How many cards?"

のように言い、お互いにHow many?と聞き合う場を作ります。その後クラス全体でシェアします。

S: 48枚。

T: Oh, you got forty eight. Great.

生徒は日本語で答えますが、英語で返していきます。各グループの枚数を聞いていく際には、そのやり取りをクラス全体がしっかりと聞くように全体をもっていくことが肝要だと思います。今後の授業の中で、「人の話を聞く→コメントする」は重要なスキルになるので、そのモデルを示すのがねらいです。

3

間違えてもOK! アルファベットカードで単語作り

音声から文字へ。これは導入期に限らず中学生にとって永遠の大きな関門です。アルファベットが表音文字であることを踏まえ、生徒がそれを体感しながら自分でつかみ取れるように、アルファベットのカードを活用した単語づくりの活動をしています。

T: Let's make "pen".

教師は「pen..pen」と何度も繰り返し聞かせる他は、あえて説明しないようにしています。教師が喋ってしまうと、生徒が考える時間を奪うことになるからです。生徒はこれまでに得た知識を生かして、少しずつ「ペ」だからpかな、と言いながら単語を作っています。そして、pen,pin,panのように一文字を変えてできる単語を聞かせ、作らせてていきます。単語を作ったらご近所と相談。すると、子どもたちは自分の言葉でなぜそうつづるのか、互いに説明できるようになっていくから不思議です。この活動では、教師が説明するより何倍も生徒が考え、話し、関わり合い、学び合います。song,sing,king, thing, think,sink,ink..など、音を頼りにカードの一部を入れ替えて単語を組み立てていきます。文字をノートに書くわけではなくテストが目的



でもないので、活動のハードルが下がり、すべての生徒が参加できます。音と文字がだんだんつながり、わかっていく達成感もあります。このアルファベットカードは、授業の冒頭の帯活動で行います。活動の最後は「片付けゲーム」。一人ずつランダムにアルファベットを言い、言われたカードを拾っていきます。「自分から一番遠い席に座っている子に聞こえるように発音しよう」という指示だけ与えます。聞き取れなかったら "Pardon?"。もう一度発音します。「その文字はさっきもう出たよ」は "Done." 机上のカードがなくなったらみんなで "All done!"。タイムを計ると緊張感とクラスの一体感が出て、大変集中した活動になって満足度があがるだけでなく、学習集団としてのクラスがぐっと仲良くなります。英語の授業では、この「安心して声が出来るクラス、間違ってもOK、助け合える気風」が一番大切だと思います。それがあれば、この後のどんなペアワークもグループ活動も音読もスムーズになり、子どもたちは集団で学ぶ楽しさと意義を感じられるようになります。「ことばで人と関わる活動」として授業を設計することで、子どもたちが「仲良くなれた」「自分は英語わかる、できる」「英語を学んでよかった」と思い、自信をもってくれば嬉しいです。

PROFILE

伊藤智子 (いとうともこ) 足立区立江北桜中学校 英語科教諭

オーストラリアで日本語を学ぶ小学生22名が7月に来校し、一日学校体験とホームステイを体験しました。決して英語が得意な生徒ばかりではない本校ですが、相手意識があるリアルなプロジェクトが生徒を成長させました。プレゼントする折り紙や交流会の司会進行、出し物はすべて生徒によるボランティアで工夫し運営。同年代の外国人と初めて接した日豪双方の生徒たちは言語学習の先に世界が広がっていることを体験していました。

啓林館が あなたの 実践的な授業を サポート

啓林館からの
お知らせも
配信予定!

情報配信サービス
中学校 エデュフル

今ほしい
情報が
盛りだくさん!!

「中学校 エデュフル」とは、先生の授業づくりをサポートする啓林館の情報配信サービス。
各学年・各教科（数学・理科・英語）毎の指導のポイントや、生徒たちが興味を持つ
授業づくりのアイディア、啓林館からのお知らせ等を直接お届けします。

Point 1

高校入試の傾向と対策



生徒たちを
より上の学校への
合格に導きたい…!!



今欲しい
情報!

入試問題について
詳しく解説します。

Point 2

授業力をみがく



生徒の成績を
向上させたいが
どうすれば分かりやすく
教えられるだろう



丁寧な解説!

先生が身につけて
おきたい様々な事例
など授業の基本を
徹底サポート!

Point 3

Q&A 先生からよくある質問



どう教えればよいか
わからないところが…



疑問に
答えます!

編集部に寄せられた
質問をQ&A形式に
して随時お届け!

Point 4

今知りたい授業のワンポイント



どうやったら
学ぶ楽しさを
伝えられるんだろう…



授業で使える
アイディア!

啓林館のノウハウが
あなたのもの!

登録はQRコードでカンタン2ステップ!



LINE で登録

右記のQRコードを読み取り、お友達登録!



メールアドレスで登録

右記QRコードを読み取り、空メールを送信。



啓林館 中学校エデュフル

検索

Fun with English

編集・発行 啓林館東京本部 TEL(03)3814-5183(直通) デザイン・印刷 株式会社スタジオヤマト・木野瀬印刷株式会社 教授用資料

— 知が啓く。 —
啓林館
<https://www.shinko-keirin.co.jp>

本 社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道 4 丁目 3 番 25 号
東 京 支 社 〒113-0023 東京都文京区向丘 2 丁目 3 番 10 号
北 海 道 支 社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西 9 丁目 1 番 2 号 サンケン札幌ビル 1 階
東 海 支 社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1 丁目 15 番 20 号 ie 丸の内ビルディング 1 階
広 島 支 社 〒732-0052 広島市東区光町 1 丁目 7 番 11 号 広島 CD ビル 5 階
九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 1 丁目 5 番 6 号 ハイビルズビル 5 隅

TEL (06) 6779-1531
TEL (03) 3814-2151
TEL (011) 271-2022
TEL (052) 231-0125
TEL (082) 261-7246
TEL (092) 725-6677